

● 計画の体系

戦略の方向		個別目標(施策)
目標が達成された姿		
基本戦略① 市民自治社会創造		
1-1. 市民と行政が協働する「山の湊」を創る		
1-1-1 市民参加や協働がしやすい環境が整っている	重点 1-1-1-1. まちづくりの協働体制を整備します	重点 1-1-1-2. 情報の発信と共有を進めます
1-1-2 広域連携・交流が進んでいる	重点 1-1-1-3. 市民ニーズを把握します	1-1-2-1. 広域連携・交流を進めます
1-2. 市民が主役の「山の湊」を創る		
1-2-1 市民が主体的に地域の課題を解決しようとしている	重点 1-2-1-1. 市民活動を応援します	重点 1-2-1-2. 地域内分権の担い手を組織します
1-2-2 市民同士の交流や融和が進んでいる	1-2-2-1. 市民交流を進めます	1-2-2-2. 市民融和を進めます
1-2-3 男女共同参画の意識が浸透している	1-2-3-1. 男女共同参画社会をつくります	1-2-3-2. 男女平等意識の浸透を進めます
1-2-4 国際化への対応が進んでいる	1-2-4-1. 多文化共生を進めます	1-2-4-2. 国際交流活動を応援します
基本戦略② 自立創造		
2-1. 地域の魅力を発信する「山の湊」を創る		
2-1-1 市内に多くの人々が訪れている	重点 2-1-1-1. 地域資源を活かした観光戦略を進めます	2-1-1-2. 観光施設を有効に活用します
2-1-2 光ファイバーネットワークを活用した情報の発信が盛んである	重点 2-1-2-1. 利用可能な情報システムの拡大を進めます	2-1-2-2. 光ファイバネットワークを有効に活用します
2-2. 活気や賑わいを生み出す「山の湊」を創る		
2-2-1 森林が適正に管理され、林業が営まれている	重点 2-2-1-1. 森林の保全・整備を進めます	2-2-1-2. 林業生産活動を応援します
	2-2-1-3. 林業基盤の整備を進めます	
2-2-2 地産地消や消費者交流など、生命をつなぐ魅力ある農業が営まれている	重点 2-2-2-1. 農業生産物の消費拡大を進めます	2-2-2-2. 農業生産活動を応援します
	2-2-2-3. 農業基盤の整備を進めます	
2-2-3 まちの賑わいと働く場が確保されている	2-2-3-1. 魅力ある商店街づくりを応援します	重点 2-2-3-2. 企業誘致を進め、雇用を確保します
	2-2-3-3. 頑張る中小企業を応援します	
2-3. 人が集い暮らす「山の湊」を創る		
2-3-1 快適に移動できる交通体系が整備されている	重点 2-3-1-1. 公共交通網の整備と利用向上を進めます	2-3-1-2. 道路網の整備を進めます
2-3-2 快適に暮らせるまちになっている	2-3-2-1. 活気がある市街地をつくります	2-3-2-2. 安全な水を届けます
	2-3-2-3. 下水を処理し水環境を守ります	2-3-2-4. 公園、墓園の整備を進めます
	重点 2-3-2-5. 良質な住宅の整備を進めます	
2-4. 地域の文化と人を育む「山の湊」を創る		
2-4-1 歴史文化財が継承・活用されている	2-4-1-1. 歴史文化財を継承します	2-4-1-2. 歴史文化財の紹介・活用を進めます
2-4-2 子どもが健やかに育っている	2-4-2-1. 確かな学力と郷土愛を育む学校づくりを進めます	2-4-2-2. 地域ぐるみで青少年の健全育成を進めます
2-4-3 いつでも学べる場が用意され、文化・スポーツ活動が盛んに行われている	2-4-3-1. 市民文化活動を応援します	2-4-3-2. 市民スポーツ活動を応援します
	2-4-3-3. 生涯学習活動を応援します	
基本戦略③ 安全・安心の暮らし創造		
3-1. 健康に暮らせる「山の湊」を創る		
3-1-1 地域の医療体制が整っている	重点 3-1-1-1. 病院、診療所の体制を整えます	重点 3-1-1-2. 地域医療の連携を進めます
3-1-2 みんなが健康づくりに努めている	3-1-2-1. 予防医療を進めます	3-1-2-2. 健康づくりを応援します

3-2. みんなで支え合う「山の湊」を創る	
3-2-1 地域で子育てを応援する意識が広がっている	重点 3-2-1-1. 子どもを生む環境を整えます 重点 3-2-1-2. 子どもを育てる環境を整えます 重点 3-2-1-3. 保育ニーズに対応する保育サービスを進めます
3-2-2 誰もが生きがいを持って社会に参加している	重点 3-2-2-1. 地域内福祉・相互扶助活動を進めます 3-2-2-2. 高齢者の生きがい対策を進めます 3-2-2-3. 障害者の自立を支援します
3-3. 安全に暮らせる「山の湊」を創る	
3-3-1 災害に強いまちづくりができている	重点 3-3-1-1. 地震・防災対策を進めます 重点 3-3-1-2. 災害対応能力を強化します 重点 3-3-1-3. 消防体制を強化します
3-3-2 地域ぐるみの安全対策が進んでいる	3-3-2-1. 防犯活動を進めます 3-3-2-2. 交通安全対策を進めます 3-3-2-3. 消費者支援活動を進めます

基本戦略④ 環境首都創造

4-1. 環境首都「山の湊」を創る	
4-1-1 環境への理解が浸透している	4-1-1-1. 地域の環境を学びます 4-1-1-2. 地域の環境を調査し紹介します
4-1-2 良好な自然環境が保全されている	4-1-2-1. 農村環境を保全します 4-1-2-2. 森林環境を保全します 4-1-2-3. 水辺環境を保全します
4-1-3 地球温暖化に向けた循環型のライフスタイルが浸透している	重点 4-1-3-1. 循環型社会への取り組みを進めます 4-1-3-2. 廃棄物の適正処理を進めます

●事業の評価

①必要性	・市民生活、又は市役所の運営等において、当該事業が不可欠(選択的)かどうか。【法令実施など】 ・当該事業が市役所以外でも利用・実施可能(代替的であるか)かどうか。【公共領域の検証、行政関与の妥当性】
②有効性	・当該事業が、上位目的に貢献する成果目標の達成に、どれだけ結びついているかどうか。【因果関係(ロジック)の妥当性】 ・成果の達成度を測るのに適切な成果指標が設定されているかどうか。【成果目標の妥当性】
③効率性	・当該事業に経費節減の可能性がないかどうか。【費用対効果の向上性】 ～委託、臨時・非常勤への代替、入札方法の変更などによる「経費節減」、業務改善による「迅速性向上」、活動量の増加などの「質・量の向上」などの可能性を考慮して判定のこと。～

3つの視点で
4段階評価を行い
総合評価に分類

点数	必要性	有効性	効率性
3	市が関与する必要性が高い	指標が適切で成果も高く、因果説明ができる	経費節減・効率性等の向上・追求はほぼ不可能
2	市が関与する必要性は普通	指標は適切だが成果が十分でない(因果は推測可能)	経費節減・効率性等の向上・追求の可能性が少ない
1	市が関与する必要性は低い	指標が不適切だが高い成果を期待できる(指標見直し予定)	経費節減・効率性等の向上・追求が可能
0	市が関与すべきでない	指標が不適切で成果が高いと期待できない(指標見直し不明)	-----

●環境視点分類

「環境事業」 : 事業そのものが環境保全や環境改善を目的とするもの

「環境関連事業」 : 事業の実施により環境が改善される要素を持つもの(一部でも可)
事業の執行過程で特別な省エネ・省資源活動を実施するもの

「一般事業」 : 事業の執行過程で通常の省エネ・省資源活動を実施するもの

●環境に配慮した施策の展開

～環境負荷の軽減 環境保全など～

【結果】以下のうちいずれかを選択する

- ・環境に配慮している
- ・一部課題がある
- ・課題がある

【理由・内容】

上記を選択した理由、どういった配慮をしたのか、どういった課題があるのかを記入する

※記入例

	環境事業	環境関連事業	一般事業
環境に配慮している	○森林整備事業 ・植林や育成林の間伐等の取組みにより、森林が果たす公益的機能の維持増進やCO2吸収源としての育成林の確保維持に大きく寄与している 等	○野外学習会事業 ・地域の豊かな自然環境を学ぶことで、環境保全や環境負荷軽減への意識が芽生える 等	・会議をパワーポイント等による説明にすることで、配布資料の削減 ・出張の際に、極力公用車の使用を避け、公共交通機関を利用している 等
一部課題がある	○廃棄物収集運搬・収集処理事業 ・市内の可燃ごみの収集回数を増やすことで住環境が改善されているが、一人当たりの可燃ごみ量の削減にはいたっていない 等	○公共バス ・より多くの方が利用できるようにすることで、CO2の排出量削減を図るが、利用者が少ない 等	・コストは掛ってしまうが、環境に優しい〇〇を利用している 等
課題がある			・コストは安価であるが、再利用(リサイクル)ができない〇〇を使用している ・施設の冷暖房が一括電源となっているため、電気の無駄遣いがされている 等

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【文化課】 鳳来寺山自然科学博物館運営事業				
目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1
個別目標	1	地域の環境を学びます				
基本方針	子どもから高齢者まで多くの市民が、地域の豊かな自然環境を学ぶことのできるよう、野外学習会や観察会、自然講座等の定期開催と充実を進めます。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	野外学習会等参加者の満足度	%	95	96	96	満足度100%/参加者アンケート調査
②	新城の自然誌の刊行		基礎調査	基礎調査	動物分野	25～27年刊行
事務事業の評価						
必要性	2	効率性	2	有効性	3	
主な活動実績						
《事業の目的》						
新城市の豊かな自然に接する野外学習会やイベントを行い、郷土の自然に対する理解と愛着を深め、自然環境の保全と共生のまちづくりをめざす。						
《事業の内容》						
動物、植物、地学に関する現地学習会を市内全域を対象に実施する。						
◆自然をたのしく学ぶ野外学習会の開催(H22実績)						
	実施日	テーマ			開催場所	参加人数
①	22年4月29日(木)	作手高原の花を楽しもう			作手高里から清岳周辺	35人
②	22年5月23日(日)	鳳来寺山でモリアオガエルや初夏の生きものを観察しよう			鳳来寺山	48人
③	22年6月6日(日)	東栄町周辺の地層と化石			東栄町一帯	44人
④	22年7月4日(日)	奥三河の滝めぐり			奥三河一帯	37人
⑤	22年9月12日(日)	川の生きものを調べよう			鳳来寺山麓音為川	45人
⑥	22年10月10日(日)	きのこを調べよう			桜淵公園内うでこき山周辺	45人
⑦	22年11月14日(日)	岩古谷山の紅葉と岩壁の植物			設楽町岩古谷山	27人
⑧	22年12月5日(日)	博物館周辺の地層と岩石			鳳来寺山とその周辺	34人
⑨	23年1月16日(日)	水鳥を観察しよう			桜淵公園一帯	20人
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	②	環境関連事業				
環境に配慮した 施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの自然を理解する ・自然の大切さと保全の重要性を認識する ・自然調査を通じて実態を把握する 					
結果	①	達成				
結果・内容	・観察会、展示会、調査活動を同時並行的に実施					
市民協働						
市民協働指数	③	双方対等		結果	① 達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調査結果の取りまとめと、最終的な報告様式を確定していく必要がある。 ・さまざまな教育普及活動を市民にPRし、より多くの市民参加を推進する。 					
方向性	・職員を正規3名から、正規2名と臨時3名とし、平成23年度から新体制で事業の推進を図る。					



基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【文化課】文化財保護事業				
目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	3	水辺環境を保全します				
基本方針	県下でも貴重な資源とされる中間湿原群の保全を図るとともに、流下能力の劣る河川を環境保全・観察のフィールドとして整備します。また、市内河川の水質調査や水生生物調査等を通じ、身近な水辺環境の保全への理解を深めます。					
成果指標		単位	実績 (H21)	実績 (H22)	目標 (H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	指定文化財等件数	件	248	249	252	指定件数／年度末
②	保存団体会員数	人	新指標	848	740	現状維持／会員名簿
事務事業の評価						
必要性	2	効率性	2	有効性	2	
主な活動実績						
《基本事業の目的》						
中間湿原の環境保全を始め市内文化財の保護を進める。						
《事務事業の概要》						
湿原に見られる貴重な植物や動物の生態系を保護・保全し、自然環境の整備活動を行う。						
【草刈等の環境整備】						
長の山湿原の草刈り実施回数: 1回／年(約44,000㎡)、清岳向山・鴨ヶ谷湿原の草刈り 6～11月で2回実施						
【環境パトロール】						
長の山湿原の見回りパトロール実施回数: 30回／年						
参加者: 作手自然愛好会						
自然環境の維持を図るため、周辺地から侵食してくる雑草等の繁茂のスピードを遅らすように、草刈り等を実施した。						
また、その変移の様子を記録することなどのパトロールを実施した。						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	③	一般事業				
環境に配慮した 施策の展開	・文化財情報の公開における工夫					
結果	②	ほぼ達成				
結果・内容	・市ホームページによる情報の発信に努める。					
市民協働						
市民協働指数	③	双方対等		結果	④ 未達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	・歴史文化財の継承や活用活動には、所有者等を始めとした地域住民の協力が不可欠であると思われる。					
方向性	・すべての地域住民が地域の歴史を学び、伝えることができる「市民学芸員」となる姿を最終目標に事業展開を図る。					



基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【農業課】 中山間地域等直接支払事業				
目標が達成された姿		地産地消や消費者交流など、生命をつなぐ魅力ある農業が営まれている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	1	農業生産活動を応援します				
基本方針	農業生産の条件不利地において、協定に基づき農業生産活動等に取り組む農業者に対して平地との生産コスト差を直接に支払い支援を行います。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	担い手への利用集積協定数		1	2	2	利用集積協定数(年度末)／ 利用集積協定数
②	農作業の作業委託協定数		3	4	4	作業委託協定数(年度末)／ 作業委託協定数
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	2	有効性	2	
主な活動実績						
集落協定を締結し、その集落協定に基づく活動について交付金を交付する。						
<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地の復旧又は草刈り等保全活動を実施。 ・農道や農地の法面管理(草刈作業)を実施。 ・柵やネットの設置などによる鳥獣害防止対策の実施。 ・農地と一体となった周辺林地の下草刈りの実施。 ・農地へ景観作物の作付けを実施し、農村風景の美化を実施。 ・魚類、昆虫類の保護の為、ビオトープを設置し管理及び近隣保育園、小中学校などの勉強の場として幅広く活用した。 ・都市農村交流活動の実施。 ・農業用施設の長寿命化を図るため、点検及び改良などを実施。 						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	③	一般事業				
環境に配慮した 施策の展開	・会議資料の節減					
結果	①	達成				
結果・内容	・会議資料の両面印刷					
市民協働						
市民協働指数	③	双方対等		結果	②	ほぼ達成
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	・中山間地域等直接支払制度の理解が一部農業者に得られていない。					
方向性	・中山間地域直接支払い制度を農業者に十分周知する必要がある。					



基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【農業課】 農地・水保全管理支払交付金事業				
目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	1	農村環境を保全します				
基本方針	農地・農業用水等の資源を将来にわたって良好な環境で保全するため、共同事業を対象とした保全向上を支援します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	環境向上活動参加者	人	4,192人	3,900人	4,700人	活動参加者数(年度末)／ 活動参加者数4,700人
②	生物の生息状況調査	地区数	11地区	16地区	18地区	状況調査地区数(年度末)／ 状況調査地区数18
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	3	
主な活動実績						
《事業の目的》						
農地・農業用水等の資源を将来にわたって良好な環境で保全するため、共同事業を対照とした保全向上を支援する。						
《事業の内容》						
農地・農業用水等の資源や農村環境を守り、質を高める地域共同の取組と、農家だけでなく地域住民一体となった環境保全の取組に対する活動を総合的に支援する。						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	② 環境関連事業					
環境に配慮した 施策の展開	・農家だけでなく地域住民と一体となった環境保全の取り組みを支援する。					
結果	① 達成					
結果・内容	・生態系保全のための調査、水質保全活動、景観形成・生活環境保全の活動を実施					
市民協働						
市民協働指数	② 行政主導			結果	① 達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	・平成23年度で5年間の区切りがつくので、その後の事業推進。					
方向性	・平成23年度から事業内容が一部変更となり、施設の長寿命化対策の実施が可能となる。					

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【森林課】 市民参加の森づくり推進事業								
目標が達成された姿		森林が適正に管理され、林業が営まれている			総合計画 体系コード	4-1-2				
個別目標	2	森林の保全・整備を進めます								
基本方針	森林体験学習を実施・推進することにより、「森づくり」、「人づくり」を行う。									
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等				
①	市民参加の森づくり参加者数	人	242	260	360	500人/年(H32) 実績参加者数/目標参加者数				
②										
事務事業の評価										
必要性	1						効率性	1	有効性	3
主な活動実績										
市民の方が自ら山に入り、森づくりの担い手になっていくことで地域の山林が整備され、健全な林業が営まれるようになることを最終目標として、平成18年度から毎年年間20回以上の学習会や講習会を実施している事業です。										
平成22年度も、初心者、中級者、上級者の3コースの講習会等を計25回開催し、市内外から260名の方が参加されました。講習会では、草刈り機やチェーンソーの取り扱い方を学んだり、上級の方は実際に山での間伐も行いました。										
また、森林に入って植物や森林の状態を観察する観察会や山での作業の安全について学ぶ安全講習会なども実施し、森林について様々な角度から学ぶ機会を提供しました。										
その他、自治会など地区で管理している山林や、学校所有の山林に出向いて行う出前講座も開催し、市有林以外の地域の山をフィールドとした活動も行いました。										
環境に配慮した取り組み										
環境視点分類	② 環境関連事業									
環境に配慮した施策の展開	・森林体験学習を実施・推進することにより「森づくり」と森林環境に意識を向ける「人づくり」を行う。									
結果	① 達成									
結果・内容	・年間20回以上にわたる学習会や講習会を開催し、260人の方の参加があった。									
市民協働										
市民協働指数	④ 市民主導	結果	① 達成							
事業の現状・課題・方向性										
現状・課題	・NPO法人のメンバーは職業を持ちながらの活動であるため、新たな事業展開を行っていくのが難しい。現在の活動は毎年300人前後の安定した参加者があり、ほぼ確立された活動となっているため、今後それを維持しながら、マンネリ化を防ぐ方策の検討を行う必要がある。									
方向性	・今の事業を適時見直し、改善・効率化できる部分、有料化できる部分などについて検討し、事業内容のマンネリ化を防ぐ検討をしていく。									

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【森林課】 水源林対策事業				
目標が達成された姿		森林が適正に管理され、林業が営まれている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	2	森林の保全・整備を進めます				
基本方針	森林の適切な管理により、水源かん養機能の向上を図ります。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	森林整備実施面積	ha	232.08	196.11	200	200ha/年(H28) 実績面積/目標面積/年度末
②	作業路新設延長	m	745.1	1,204.5	1,200	1,200m/年(H29) 実績延長/目標延長/年度末
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	2	有効性	3	
主な活動実績						
豊川水系を軸とする関係18市町村と愛知県が共同で設立した財団法人「豊川水源基金」の助成金を受け、水源かん養林の整備を行いました。						
平成22年度は160haの間伐が行われ、作業路2路線が開設されました。						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	② 環境関連事業					
環境に配慮した 施策の展開	・水源かん養機能等森林の有する多面的な効用を環境に与えることを目的として森林管理を行っている。					
結果	① 達成					
結果・内容	・森林管理は確実に実施されたため、環境への効用も保持された。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果	① 達成		
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	・森林所有者の森林整備への関心が低いため、市などが関与して水源林の整備を進めている。					
方向性	・豊川水系の水資源安定確保を目的として設置された豊川水源基金の意義を十分に踏まえ、その資金を最大限有効利用して森林管理を進めていく。					

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【森林課】 森林資源調査・研究事業				
目標が達成された姿		森林が適正に管理され、林業が営まれている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	2	林業生産活動を応援します				
基本方針	基本となる林業や製材業をベースにしながら、公共財としての森林の環境面に配慮した新産業による地域経済の活性化と新規雇用の創出を図ります。					
成果指標		単位	実績 (H21)	実績 (H22)	目標 (H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	参加者数	人	50	22	80	
②	参加者の満足度	%	62	86	80	アンケートにより集計
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	1	有効性	3	
主な活動実績						
平成22年度の森林学習会では、「木の駅プロジェクト」～軽トラとチェーンソーで晩酌を～をテーマに、山の中に伐り捨てられたままの林地残材を搬出し、「木の駅」と呼ばれる集積場所に持っていき、地域通貨券6,000円分と交換してもらえる仕組みと、それを実施している地域の取り組み状況を紹介しました。参加者は22名で目標値に比べ少なめでしたが、参加された方からは、「非常によい話が聞けた」という声が多く寄せられ、満足度の高い学習会となりました。						
平成23年度には、参加者の一部の方たちにより、この地域での「木の駅プロジェクト」が始まろうとしており、学習会の効果が既に現れています。						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	②	環境関連事業				
環境に配慮した 施策の展開	・森林学習会を開催し、多くの方に森林の実情などについて知る機会を提供することで、森林や環境の大切さに気付いていただく。					
結果	①	達成				
結果・内容	・学習会は参加者の満足度が非常に高く、多くの方が森づくりの大切さに気付き、何らかの大切さに気付き、活動がしたいとアンケートに回答している。					
市民協働						
市民協働指数	②	行政主導		結果	① 達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	・森林学習会という限られたテーマ設定であるため、多くの方が参加する学習会にするための内容の選定、講師の選定が難しい。できるだけ情報収集につとめ、的確なテーマ設定と講師選択をしたい。					
方向性	・平成22年度の学習会は、参加人数こそ少なかったが、参加者の満足度は非常に高く、身近な話で分かりやすかったという意見が多かった。参加人数にだけこだわらず、ニーズの把握をし、知りたいと思っているテーマを設定していくことにつとめたい。					



基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【環境課】 水質浄化・管理事業				
目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	3	水辺環境を保全します				
基本方針	県下でも貴重な資源とされる中間湿原群の保全を図るとともに、流下能力の劣る河川を環境保全・観察のフィールドとして整備します。 また、市内河川の水質調査や水生生物調査等を通じ、身近な水辺環境の保全への理解を深めます。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	ボランティア等による河川水質調査の実施	回	6	5	10	ボランティア等による調査実施数
②						
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	2	
主な活動記録						
<p>《事業の目的》 市民の生活環境の保全と健康の増進を図るため、環境状況の指標となる物質や人体に有害な物質などの現状把握経年の推移を調査測定し公表するとともに、水質の変化の原因による対策を講じ、環境保全対策の基礎資料とする。</p> <p>《事業の内容》 年2回、市内32河川において、pH、BODなど9項目の検査を実施し、市内河川の水質状態を把握する。また、市内小中学校や地域ボランティア団体から水生生物調査の要望があった際に調査をサポートすることで身近な水辺環境保全への理解を深める。</p> <p>【河川水質検査】(H22実績) ■豊川水系:20河川21箇所 ■矢作川水系:1河川1箇所</p> <p>【水生生物調査】 ■実施団体:10小学校、4団体 ■実施回数:14回 ■調査河川:12河川 ■調査期間:H22.6.21~H22.8.22 ■参加人数:延べ431人 ■調査結果:水質階級Ⅰ=43%、水質階級Ⅱ=43%、水質階級Ⅲ=7%、水質階級Ⅳ=7%</p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	水質保全の必要性や河川愛護の重要性を学び、意識の高揚に繋げる。					
結果	①	達成				
結果・内容	より深く理解するため、職員による分かりやすい説明と実際の調査を一緒に行う。					
市民協働						
市民協働指数	②	行政主導	結果		① 達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	年2回、市内32河川において、pH、BODなど9項目の検査を実施し、市内河川の水質状態を把握する。また、市内小中学校や地域ボランティアから水生生物調査の要望があった際に調査をサポートすることで身近な水辺環境保全への理解を深める。					
方向性	今後も継続して市内の河川の水質状態を把握する必要がある。					



基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【行政課】 公用車(低公害車)導入事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型ライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取り組みを、市民と行政が協働しながら展開します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①						
②						
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	3	
主な活動実績						
《事業の目的》						
地球温暖化防止のため、二酸化炭素の削減と環境保護への啓発を図る。						
《事業の内容》						
県条例(排ガス30%規制)に基づき公用車を低公害車に更新するにあたり、公用車更新基準(耐用基準年数・走行距離数)を勘案して、計画的に更新する。						
◇平成22年度実績						
・ハイブリッド自動車 2台(累計4台)						
・低排出ガス認定車&低燃費車						
新☆☆☆☆&低燃費車3台(累計18台)						
新☆☆☆&低燃費車0台(累計16台)						
☆☆☆&低燃費車0台(累計4台)						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	・低公害車への更新により、CO2の排出削減					
結果	①	達成				
結果・内容	・公用車更新基準に基づき公用車の低公害への更新が計画通りできた。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果	①	達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	・公用車更新基準に基づき、低公害車に更新できた。					
方向性	・公用車更新基準に基づき、低公害車に更新していく。					




基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【環境課】エコオフィス推進事業(環境行動配慮事業)				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	補助キロワット数	kW	260.61	268.55	250	補助実績を集計し前年度比較
②	緑のカーテン取組者数	件	44	57	150	取組者数
事務事業の評価						
必要性	3					
主な活動記録		<p>《事業の目的》 地球温暖化防止のため、二酸化炭素の削減と環境保護への啓発を図る。</p> <p>《事業の内容》 法令や京都議定書に記された二酸化炭素削減率の達成などのため、地方公共団体実行計画(区域施策編)の策定や各取り組みの啓発・推進、住民活動への支援などを行う。(家庭の紙、ごみ、電気の削減に対する取り組み)</p> <p>【住宅用太陽光発電設置費補助】(H22実績) ・68件、269.07kW、4,785,000円(上限額80,000円)</p> <p>【各種モニター制度】(H22実績) ・省エネナビ(配電盤設置型家庭用電気使用量表示機) 1名 ・エコワット(コンセント設置型家庭用電気使用量表示機) 1名 ・自動車用燃費計 2団体</p> <p>【緑のカーテン事業】(H22実績) ・市役所施設への設置 12施設(17課が取り組み実施) ・市内一般家庭を対象とした「緑のカーテン倶楽部コンテスト」応募者 36名</p> <p>【しんしろエコ・ライブラリー(環境図書等貸出事業)】(H22実績) ・不都合な真実(DVD)、図書等の貸出 11名</p> <p>【電気自動車の活用】(H22実績) ・展示、体験同乗会の開催 7回</p>				
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	市民参画による実行計画策定					
結果	②	ほぼ達成				
結果・内容	実行計画策定はH23年度～となった。 環境負荷低減に向けた事業を実施。					
市民協働						
市民協働指数	②	行政主導	結果	②	ほぼ達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	国が示す「温室効果ガス25%削減」に対し、市がコントロールできる部分(割合)を区分していく必要がある。					
方向性	原発事故によるエネルギーセキュリティの高まりから拡充していかざるを得ないと想定される。国の動向をチェックし、効率の良い事業展開に努めたい。					

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【行政課】エコオフィス推進事業(庁内)								
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型ライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3				
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます								
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取り組みを、市民と行政が協働しながら展開します。									
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等				
①	温室効果ガス排出量の削減(H18年度比)	%	△4.9%	△5%	△6%	△8%(H30年度)				
②	電気使用量の削減(H18年度比)	%	△4%	△5%	△8%	△10%(H30年度)				
事務事業の評価										
必要性	3						効率性	1	有効性	2
主な活動実績										
《事業の目的》										
地球温暖化防止のため、新都市役所関係事業所から排出される二酸化炭素の削減と環境保護への啓発を図る。										
《事業の内容》										
京都議定書に記された二酸化炭素削減率を達成するため、省エネルギー診断を行いその診断に基づきESCO事業を活用してエネルギーの削減に努める。										
◇平成22年度実績										
エコオフィス推進員会議を開催し、市役所関係機関における節電の協力を呼びかけた。										
<ul style="list-style-type: none"> ・コンセントオフ運動の実施 ・クールビズの実施 ・市役所関係施設の高圧受電施設の電気受給のPPSへの切替の検討・実施 										
環境に配慮した取り組み										
環境視点分類	③ 一般事業									
環境に配慮した 施策の展開	・庁舎管理の各面において、省エネに努めることで二酸化炭素排出量の削減に繋がる。									
結果	③ 一部達成									
結果・内容	・職員の省エネに対する意識を高めていくことが重要である。									
市民協働										
市民協働指数	① 行政主体	結果	① 達成							
事業の現状・課題・方向性										
現状・課題	・庁舎・設備の老朽化と施設の分散により、二酸化炭素排出量が多くなっている。									
方向性	・新都市地球温暖化防止実行計画(第2次計画)を策定し、エネルギー使用量の削減を図っていく。									

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【環境課】エコアクション推進事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	市民環境講座への出席者数	人	117	146	60人×回数	大会議室入場率6割×実施回数
②	エコアクション事業の参加者数	人	2,000	2,000	2,000	キャンドルナイトなどへの参加者数、製作者数などの合計
事務事業の評価						
必要性	2	効率性	3	有効性	3	
主な活動記録						
<p>《事業の目的》 個々の活動(点)を面への取り組みへ【市民力の育成】</p> <p>《事業の内容》 地球規模で深刻化する環境問題に対し、身近なところで着実に取り組んでいる市民及び市民団体の活動を支援するとともに、活動している市民や市民団体のネットワークの充実を図る。また、環境活動に関する学習の機会や情報提供を行い、新城市全体の取り組みを充実させ、市民・事業所・行政が協働して、環境首都を目指す。</p> <p>【市民環境講座開催】(H22実績) ・どーする？地球のあした ～ストップ温暖化～ 27人 ・買い物で変わる！私たちの暮らし 36人 ・フェアトレード講演会&ミニコンサート 167人</p> <p>【キャンドルナイト新城2010】(H22実績) 実行委員会方式により実施(1幼稚園、12保育園参加、市内外の25企業から協賛) 【チーム・マイナス6%からチャレンジ25キャンペーンのPR】 国の動きに合わせ、市においても「チーム・マイナス6%しんしろ」を軸にした普及啓発から「チャレンジ25新城」へと移行することとなりました。</p> <p>【温暖化に関する出張授業】(H22実績) 1小学校、1団体に実施。</p> <p>【親と子の走る環境教室】(H22実績) 夏休み期間に2回実施。</p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	気づきから環境改善行動に結びつけてもらうためのきっかけづくりとしての企画					
結果	①	達成				
結果・内容	講座開催の視点を変え、参加ターゲットをかえるなど多くの方に興味をもってもらえる企画とした。					
市民協働						
市民協働指数	③	双方対等		結果	①	達成
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	学校から依頼がある水生生物調査等に関しては全てのニーズに答えきれていない。温暖化に関する出張授業については学校だけでなく、夏休み期間の子ども会からの要請などもあり、徐々に増えてきている。					
方向性	地球規模で深刻化する環境問題に対し、問題を理解し、考え、行動し、働きかけ、連携していく仕掛けづくりのために必要な市民を増やし、ネットワーク化するための事業である。今後は市域を越えた取り組みも必要になってくると推測される。					

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【環境課】エコガバナンス推進事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	環境基本計画の推進	—	報告書作成	報告書作成	報告書作成	年次報告書の発行
②	事業所とのコミュニケーション	回	4	4	4回以上	毎年4回以上
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	2	有効性	2	
主な活動記録						
<p>《事業の目的》 環境に基軸を置いた持続可能な市民自治社会の確立</p> <p>《事業の内容》 平成13年2月28日に審査登録された旧新城市役所のISO14001を平成18年2月に「しんしろエコガバナンス」への取り組みへ変更した。しんしろエコガバナンスとは環境に基軸を置き、持続可能な市民自治社会を確立しようとするものである。</p> <p>【環境報告書】(H22実績) ・年次報告書として作成</p> <p>【ISO14001認証取得事業所等連絡会議】(H22実績) ・定例開催4回(5月、8月、11月、2月)</p> <p>【環境首都コンテスト全国フォーラム】(H22実績) ・11月17～18日 熊本県水俣市にて開催:市長ほか職員2名参加</p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	① 環境事業					
環境に配慮した 施策の展開	全体が環境育成型市民自治社会構築に向けた仕組みづくりを目標とした施策である。					
結果	① 達成					
結果・内容	市民会議(アジェンダ21)を立ち上げた。 環境基本計画の進行管理に市民意見を反映できる機会を設定した。					
市民協働						
市民協働指数	②	行政主導	結果		②	ほぼ達成
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	持続可能な市民自治社会を確立することを目標にコミュニケーションを中心とした事業展開をしている。企業とのコミュニケーションにはISO14001に対する認識が必要不可欠であり、環境マネジメントシステム審査員などの資格取得が必要である。					
方向性	平成23年度は「環境首都を目指す自治体 全国フォーラム」を本市で開催する。 新城アジェンダ21の策定に向け、関係各課との連携が必要。					



基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【生活衛生課】 廃棄物減量化・資源再利用推進事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	減量化・資源化のための広報等啓発活動	回	1	1	1	毎年度内活動回数月1回以上
②	環境学習(分別説明会、施設見学等)参加人数	人	787	820	875	毎年度年間の参加人数
事務事業の評価						
必要性	2	効率性	2	有効性	2	
主な活動実績						
<p>《事業の目的》 クリーンセンター西側にストックヤードを整備し、3地区に分かれて収集運搬していた資源物を保管し、好条件で売却する。</p> <p>《事業の内容》 一般廃棄物の収集拠点化、クリーンセンターとの一括運営。 分別表の作成。</p> <p>【主な活動名】(H22実績) <ul style="list-style-type: none"> ・資源集積センターへの一般搬入件数 2,299件 ・資源集積センター(資源物・有害物)保管量 679トン ・資源、ごみ分別表及び分別ガイドの作成・配布 ・廃棄物減量化・資源化のための広報等による啓発(月1回以上) ・環境学習(分別説明会、施設見学等)参加人数 820人 </p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した施策の展開	生活環境委員さんや地域の方の意見を聞き、より多くの資源物が回収できるように心がける。					
結果	②	ほぼ達成				
結果・内容	資源の再利用に努めた。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果	② ほぼ達成		
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	一部の転入者や外国人に分別意識が低いように感じられる。					
方向性	生活環境委員や地域の代表者を通じて分別方法をPRする。					



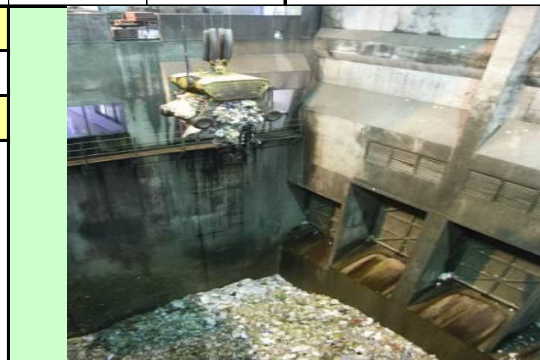
基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【生活衛生課】 廃棄物収集運搬事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2 廃棄物の適正処理を進めます					
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
成果指標		単位	実績 (H21)	実績 (H22)	目標 (H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	可燃・不燃ごみ収集体制(委託)の見直し	回	1	1	1	毎年度内1回の見直し確認
②	作業中の負傷・事故の発生件数	件	4	2	0	毎年度年間の発生件数
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	2	有効性	2	
主な活動実績						
<p>《事業の目的》 収集作業員の雇用や廃棄物収集車両の維持管理を適正に行い、家庭から排出される可燃ごみや不燃ごみ、地区の資源回収時に排出された資源物などの収集運搬を行う。</p> <p>《事業の内容》 クリーンセンターとの一括運営を図りながら、可燃ごみと不燃ごみについて一部地域の収集を業者へ委託している。週2回の可燃収集は、全市域における収集業務を効率よく継続して実施する。また、資源物や埋立ごみは、資源集積センターや鳥原処分場で選別などを行い適正な処理を行う。</p> <p>【主な活動名】(H22実績) <ul style="list-style-type: none"> ・作手地区全域で可燃ごみ週2回収集を実施(対象人口2,987人) ・可燃・不燃ごみ収集体制(委託)の見直し 1回 ・収集作業中の負傷・事故の発生 2件 </p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	収集車が効率良い収集体制を採る。					
結果	②	ほぼ達成				
結果・内容	作手地区における週2回収集を2方面から効率良く収集を行った。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果	②	ほぼ達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	可燃ごみ週2回収集の実施を全市域で行うことになり、さらに効率良い収集体制を図り業務を行う必要がある。					
方向性	今後、収集職員の退職の時期も迫ってくることから民間委託による実施を踏まえ、収集体制を検討していく必要がある。					




基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【生活衛生課】クリーンセンター管理事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	焼却炉の維持管理	回	1	1	1	定期点検年1回
②	機械類等施設の維持管理	回	1	1	1	検査項目毎に年1回以上確認
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	3	
主な活動実績						
<p>《事業の目的》 クリーンセンターの運転を平成30年度以上維持管理できるようにする。</p> <p>《事業の内容》 クリーンセンター維持管理 焼却炉耐火物修繕工事</p> <p>【主な活動名】(H22実績) ・総処理量 13,211.83トン(搬入量 12,991.91トン) ・焼却炉稼働日数 1号炉 225日 2号炉 219日 ・焼却施設点検整備実施 ・環境測定(ごみ質・排ガス・焼却灰等) ・ダイオキシン類測定(土壌) ・耐火物修繕工事施工 ・誘引通風機修繕工事施工 ・ごみクレーン走行レール修繕工事施工</p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	炉の立ち上げ、立ち下げの時に使用する助燃材(灯油)の効率を上げ、使用量を抑えるように努める。					
結果	④	未達成				
結果・内容	灯油の使用量を減らすことで、環境負荷を低減する。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果		②	ほぼ達成
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	施設の老朽化が進み、多くの予算が必要となっている。					
方向性	限られた予算を有効に使い、安全で安心できる維持管理に努める。					



基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【生活衛生課】クリーンセンター西側整備事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	残土運搬・整地・進入路拡張・フェンス設置工事		地元協議	フェンス設置等	維持管理	施設維持管理、クリーンセンターの存続と同様
②						
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	2	
主な活動実績						
《事業の目的》						
センター建設時地元塩沢区との覚書による整備計画があり、平成20年度に資源集積センターが開設され順調に稼動を行っているところであるが、さらにこの西側の整備を進める必要がある。						
《事業の内容》						
地区代表役員との協議、地区クリーンセンター対策委員会との協議、庁内検討会議、残土搬入・整地、フェンス設置工事、植栽。						
【主な活動名】(H22実績)		・クリーンセンター西側整備工事（進入路拡張、フェンス設置、法面種子吹き付け）				
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した施策の展開	緑化による地球温暖化防止					
結果	③	一部達成				
結果・内容	植栽を行うことで、地球温暖化防止に努めた。					
市民協働						
市民協働指数	③	双方対等		結果	③	一部達成
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	心配された残土運搬が、計画通り順調に運搬された。					
方向性	事業計画に従い事業を進める。					

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【生活衛生課】最終埋立処分場の維持管理事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	水質検査	—	項目基準値	項目基準値	項目基準値	検査項目毎に月1回の検査
②	機器类等施設の維持管理	回	1	1	1	機器毎に年1回以上の点検・確認
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	3	
主な活動実績						
<p>《事業の目的》 最終処分する一般廃棄物を効率的に安全に破碎、埋立てを行い、最終処分場を維持管理し、より長期間使用する。</p> <p>《事業の内容》 市全域から埋立・粗大ごみが回収・搬入され、破碎処理等を行い、不燃物埋立処分場への運搬を考慮しながら効率的に埋立作業を実施する。また、浸出水処理施設においては、水質検査や環境測定などを行い施設を維持管理する。</p> <p>【主な活動名】(H22実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4施設の水質管理及び浸出水処理施設の設備点検を実施(月1回以上) ・浸出水処理施設の修繕を施工 ・廃棄物埋立、遮水シート保護工事施工(作手菅沼) ・廃棄物埋立整地工事施工(七郷一色) ・総埋立量 2,032トン(焼却灰1,527トン、不燃物505トン) ・鳥原埋立処分場への粗大ごみ等一般搬入件数 2,831件 ・鳥原処分場での不燃物選別破碎処理(金属類回収量 115トン) 						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	適正な水質管理を行うことで、効率良い施設管理に努める。					
結果	①	達成				
結果・内容	適正な水質管理を行うことで、河川の環境保全が図られる。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果		①	達成
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	施設の老朽化に伴い、維持管理費が増加傾向にある。					
方向性	計画的に施設の改修をすることで、維持管理費の低減を図る。					

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【生活衛生課】ごみ処理広域化基本計画策定事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	東三河ごみ焼却施設広域化ブロック会議	回	1	1	1	年度内開催会議回数
②						
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	3	
主な活動実績						
<p>《事業の目的》 循環型社会形成に対応した新たな処理施設の建設により将来の本市のごみ処理を可能とする。</p> <p>《事業の内容》 国の指針に基づき『愛知県ごみ処理基本広域化計画』が策定され県内を13ブロックに分けられ、今後の施設建設には循環型社会形成に対応出来ることが求められている中で、本市が含まれるブロック内においても基本計画策定を実施し対応を図る。本市ごみ処理基本計画及び、今後本市施設の計画を踏まえ策定業務に関わる。</p> <p>【主な活動名】(H22実績) ・東三河ごみ焼却施設広域化ブロック会議開催 1回</p>						
<p>図-1 本計画の位置付け</p> <p>1. 序論 広域化計画の目的、位置づけ等を明確にするとともに計画の期間を定める。 (1) 計画の目的 (2) 計画の期間（原則として20年間とする）</p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	広域でのごみ処理を行えば、効率よいごみ処理が可能となる。					
結果	③	一部達成				
結果・内容	ごみ処理の効率化が進めば、環境負荷が低減される。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果	③	一部達成	
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	東三河地域広域化ブロック(豊川市、蒲郡市、新城市、設楽町、東栄町、豊根村、根羽村)でごみ処理施設の広域化に向けて検討を行っている。					
方向性	ごみ処理施設の広域計画に向けての最初の計画である、循環型社会の計画に向けて事業が進められている。					

基本戦略4「環境首都創造」の進捗状況

主な事業		【生活衛生課】し尿処理施設管理事業				
目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
成果指標		単位	実績(H21)	実績(H22)	目標(H25)	成果指標設定の考え方・式等
①	運転管理業務	回	12	12	12	毎年12回点検等実施
②	機器の点検	回	6	6	6	毎年6回機器等点検実施
事務事業の評価						
必要性	3	効率性	3	有効性	3	
主な活動実績						
<p>《事業の目的》 保全を目指した生活排水処理の推進を図る。また、経済運転を行う。</p> <p>《事業の内容》 し尿処理施設の維持管理を行う。</p> <p>【新城市のし尿処理基本計画の策定】(H22実績)</p> <p>平成21年4月に愛知県における「流域下水道におけるし尿処理施設からの排水取り扱い基本方針」が定められたことを受けて、新城市のし尿処理基本計画を策定しました。この計画では合併浄化槽や下水道等の各種生活排水処理施設整備事業との整合性を考慮し、目標年次における生活排水の種類別及び処理施設の選択等の施策を総合的に定め、既存の新城市清掃センターし尿処理施設の今後の整備についての有り方について検討を行った。</p>						
環境に配慮した取り組み						
環境視点分類	①	環境事業				
環境に配慮した 施策の展開	し尿処理水(排水)の適正な水質管理を行うことで、生活環境項目の環境基準の達成を図った。					
結果	①	達成				
結果・内容	河川の有機汚濁の代表指標であるBOD(生物化学的酸素要求量)の環境基準を達成した。					
市民協働						
市民協働指数	①	行政主体	結果		①	達成
事業の現状・課題・方向性						
現状・課題	清掃センターは、昭和37年の竣工で施設が古くかなりの老朽化が進んでいることから、安定したし尿処理や排水がしだいに困難となりつつある。					
方向性	他の計画や関係機関との調整を図りながら、下水道施設放流方式でのし尿処理方法を検討する。					

